

# あすを拓く



株式会社ケディカ  
シニアアドバイザー  
松原 正道さん

めつきとは、装飾、絶縁、耐食性など、素材に様々な機能を付加させる表面加工技術のこと。40余年、あらゆるものにめつきを施してきた熟練技術者が自身の技の習得と伝承について語った。

**プロフィール**  
1953年、仙台市宮城野区生まれ。高校の化学工業科を卒業。74年にケディカの前身、株式会社共和電化に入社。特級めつき技能士。2006年宮城県「卓越技能者表彰」、13年厚労省「卓越した技能者（現代の名工）」表彰。15年「黄綬褒章」受章

株式会社ケディカは、国内トップクラスの技術力をもって、微細な半導体部品から大きな建築部材まで、あらゆるものにめつきの表面加工を施している。近年は、国産ハイブリッド車やアメリカ大手のスマートフォンなどの部品も手掛け、グローバルに事業を展開する。

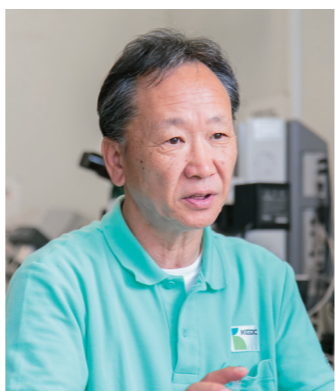
「スズめつきは、はんだ付けしやすくするためのもので、金銀めつきは電導性を良くするためのもの。一口にめつきといっても、実に多彩で奥深いものなのです」

そう話すのは、特級めつき技能士の資格を持つ松原正道さん。めつき技能士は検定試験の合格者に与えられる国家資格であり、等級が高くなるほど、高度な知識と技術が必要とされる。さらに特級は、1級合格後に5年以上の実務経験がないと受験資格が得られず、試験内容もより難しくなる。

会社では、およそ90人のめつき技能士が働き、世界に誇る技術力を支えている。

いきましたが、まだまだ増えそうです。私のライフワークになるでしょうね」と白い歯を見せた。

同社の企業理念に、「表面処理技術の開発を通じて、地域産業の振興と社会の発展に貢献する」がある。松原さんは、「これからも業界の発展のために、できる限りのことをしていきたい」と意欲を燃やす。



「二重結合、三重結合など、化合物の構造を知れば知るほど興味がわいてきた」と化学の魅力を語る松原正道さん



2015年秋に受賞した黄綬褒章。業務に力を尽くし、模範となるような人に贈られる

## 化学に魅力を感じ、めつき技術者の道へ 新たな技術を自らの手で開拓する

松原さんは、工業高校を卒業後に上京し、設備関係の仕事に就いた。しかし、「高校で学び、のめり込んでいった化学に関わる仕事で活躍したい」と仙台に戻り、ケディカの前身である株式会社共和電化に入社した。そして、「仕事は自分の目で盗んで、体で覚える」と先輩に言われながら、めつきについて一から学び始めた。

入社から半年後、「松原。やってみろ」と先輩から突然、はんだめつきの仕事を任された。はんだめつきは、はんだ付けをしやすくするため、電子部品の基盤などにはんだと親和性の高いスズめつきを施すこと

である。松原さんが担当したのは、それまで社内で誰も手掛けたことがない新しい部品へのめつきだったため、困難の連続だった。松原さんは、手作業でめつきを施した後、製品の性能を分析した。失敗を繰り返しながら、めつき液の配合を調整し、自らの力で道を切り開いていった。

「苦労しましたが、最初から教えてもらっていたら、その後も先輩に頼ってばかりだったかもしれません。当時の経験があったからこそ、成長できたと思っています」

時代の移り変わりとともに、新しい表面処理技術に挑んできた同社の技術者として、松原さんは技術開発の最前線を歩んできた。表面処理に使われる薬品は、何百種類もあり、その組み合わせは無限だ。松原さんは、薬品それぞれの特性を把握し、数々のめつき液や化学研磨液を開発してきた。

かつて、携帯電話の基地局に使われる装置にさび止め処理を施す際に、アルミ製の表面を研磨する作業に苦戦する職員がいた。それを知った松原さんは、何種類かの薬品を調査し、数カ月かけて独自の化学研磨液を開発。研磨処理中に発生する熱を抑えることで、作業効率を改善してみた。

「表面処理の仕事は、お客様から預かった製品に要望通りの処理をしてお返しすることです。失敗は絶対に許されないし、プロとして恥ずかしいことです」と松原さん語る。それ以上に恥ずかしいのは、お客様との要望に対して「できません」と答えること。これまで、難しい要望に胸を高鳴らせ、自分が思い描いたような品質で仕上げた時の上ない喜びを味わうことができた。

## 業界の発展と後進の育成に力を注ぐ 技を数値に残し未来に託す

松原さんは、定年退職後もシニアアドバイザーとして同社で後進の指導にあたりながら、大学の歯学部と協同で、医療器具の洗浄技術の開発に携わっている。

今もなお現役として活躍する一方で力を注いでいるのが、これまで培ってきた経験をもとに、一つ一つデータとしてまとめることだ。かつて先輩からは、「五感で感じる」「体で覚える」と言われてきたことが、薬品につける時間や処理中の温度など、数値として残さなければ技術は継承されていけないと感じている。

「ファイル7、8冊分にまで膨らんでしま



科学イベントで子どもたちめつきの魅力を伝える。小学校理科の出席授業の講師も務めるなど、社会貢献活動にも力を注いでいる

## 株式会社ケディカ

1946年の創業当初からめつき処理を得意とする総合表面処理メーカー。社内に技術開発部門をいち早く設置し、独自技術の開発に力を入れる。あらゆる素材や部品にめつきを施す技術力を武器に、製造業界のニーズに答えている

■所在地  
仙台市泉区明通 3-20  
TEL 022-777-1351  
FAX 022-777-1357  
<http://www.kedc.co.jp/>

